



富山大学理学部後援会報

りっか

第16号 2021.3

数学科

物理学科

化学科

生物学科

地球
科学科

生物圏
環境科学科



後援会報の名称「りっか」とは…

「りっか」とは、雪の異称であり、漢字では六花と書きます。六角形の結晶の麗姿を花にたとえています。私たちの理学部章は雪の結晶がモチーフとなっています。全国でもまれな、6学科から構成されている理学部であることを象徴しています。

ごあいさつ

理学部後援会会長 成瀬 真

春暖の候、後援会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今般、理学部会報「りっか第16号」を発行することができましたのも、ひとえに皆様の後援会活動へのご理解、ご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、令和2年の春ごろからの新型コロナウイルス感染症の影響により、富山大学も休校、若しくはオンライン授業といった前代未聞の事態に見舞われたところです。前期を乗り越え、後期に入り感染症の拡大が一旦落ち着きを見せたかに思われましたが、年末から第3波の感染症が猛威を振るってきたため、特に県外出身学生の親御さまにとりましては、心配のため気の休まることのない一年間であったものと、ご推察いたします。

学生の皆さまは、コロナ渦によりこれまでの生活様式から、激変した日常を余儀なくされ、それでも遅くも学業に勤しんでおります。こうした状況に対して果敢に立ち向かっていますので、臨機応変に適応する力も身についたのではないかと思います。令和2年から大変な時期を過ごしておりますが、今後の人生の糧になればと願ってやみません。

収束がみえない状況ではありますが、皆さまのご要望を踏まえ後援会事業の充実を図り、より良い教育環境の整備に向け、学部長をはじめ大学関係者の皆さまと連携し支援していきたいと考えております。会員の皆様におかれましては、今後とも理学部後援会の発展のため、一層のご協力ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



保護者の皆さまへ

理学部長 若杉 達也

平素より理学部の教育に対して、ご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。令和2年度は、理学部から218名の卒業生を実社会や大学院へ送り出すことになりました。これも、保護者の皆様のご支援のおかげと深く感謝しております。

昨年度後半から今年度にかけて、世の中は新型コロナウイルス感染に振り回されました。感染拡大に伴う活動制限や経済活動の停滞により、大きな影響を受けておられる方も多いと思います。新型コロナウイルス感染の一刻も早い終息を願ってやみません。

富山大学も、今年度前期の授業のほとんどが遠隔となり、慣れない授業形態に戸惑いながら、教員も学生諸君も教育の中断を招かないよう一生懸命になって取り組み、授業を継続することができました。後期からは対面授業も可能となりましたが、富山県内や大学内の感染状況により、やむを得ず遠隔授業とすることもございました。

このように、新型コロナウイルスの感染拡大は大学教育に多くの障害をもたらしましたが、そういった中でも、大学で学ぶことに対する意欲を持ち続けることの大切さを改めて感じました。また、社会や経済の状況が深刻な時こそ、社会で活躍するために必要な力を身に付けていることが必要となります。理学部では、現代の社会で活躍するための能力を培うために「グローバル化」、「地域貢献」、「理工系人材育成」といった取り組みを進めるとともに、データサイエンス教育や異分野融合・新分野創出につながる教育などを新たに展開し、学生諸君が大きく変化する社会に自信をもって巣立っていきけるよう努めています。今後とも、保護者の皆様方との連携を密にして、教育の質を高めていきたいと考えていますので、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年度 キャンパススケジュール CAMPUS SCHEDULE

4	○ 入学式 ○ 新入生 オリエンテーション ◆ 新入生保護者懇談会 ○ 授業開始(前期)
5	
6	○ 第3年次編入学試験 ◆ 北陸地区 国立大学体育大会 ◆ 後援会理事会・総会
7	
8	○ 期末試験・集中講義 ◆ オープンキャンパス ○ 夏季休業開始 ○ 大学院入学試験
9	◆ サイエンス フェスティバル
10	○ 授業開始(後期) ◆ 開学記念日 ◆ 大学祭 ◆ 北陸三県大学 学生交歓芸術祭 ○ 総合型選抜 ◆ 就職・進学合同説明会
11	○ 特別選抜(学校推薦型 等)
12	○ 冬季休業開始
1	○ 授業再開 ○ 大学入学共通テスト
2	○ 期末試験・集中講義 ○ 卒業論文発表会 ○ 一般選抜(前期日程)
3	○ 一般選抜(後期日程) ○ 学位記授与式

曲 線や曲面を微分を使って表す、幾何学の研究をしています。教科書だけでなく、自分の想像力も必要となることが大変ですが、面白いところでもあります。3年生までの勉強で、平面から立体にしていくのが面白かったことと、微分積分も好きだったので、この研究テーマを選びました。

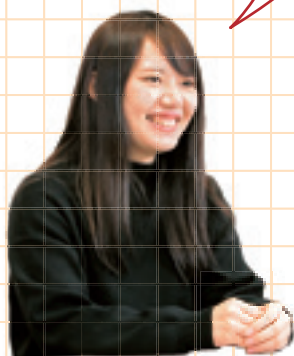
中学生の時から先生という職業に憧れがあり、念願が叶って、春からは中学校で数学の先生になります。生徒のために何ごとも妥協せず、一人ひとりに寄り添えるような先生になりたいと思っています。



こい で みなみさん
生物学科4年生 (新潟県出身)

豆 科の薬用植物に遠心機で10倍の重力をかけて育て、形態がどう変わるかという研究をしています。大変だと思うのは、100本以上ある根の長さを手動で測ることでしょうか。反対に楽しいのは、実験や研究で予想を裏切られた時です。終わりが無い研究だと思うとワクワクして、反対にチャレンジ精神が湧いてきます。

大学院では、さらに薬効成分の研究もしていきたいと思っています。この研究によって、より良い薬用植物の栽培が実現できるのではないかと期待しています。



さくら い もも かさん
数学科4年生 (神奈川県出身)

触 媒を使って水素を発生させる研究をしています。先生から研究内容をお聞きした時に、「実現すれば世界が変わる!」と感動し、この研究テーマを選びました。新しい研究なので、自分で実験条件を考えるのは大変ですが、一つでも道筋が見えてきた時は楽しいです。朝から晩まで研究で頭がいっぱいの毎日ですが、研究を通してスケジュール管理能力が身についたのを感じています。春からは大学院に進学し、研究を続けます。夢は、化学関係の仕事を一生涯続けていくことです。

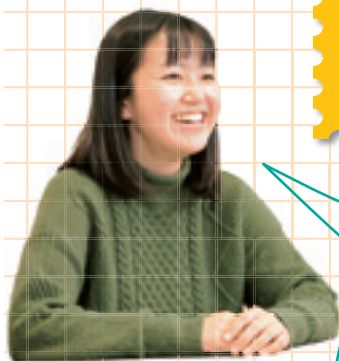


さが み ひびき 響さん
化学科4年生 (秋田県出身)

理学部

フィールド・オブ・ドリームズ

研究室やフィールドで、日々独創的な研究や、環境問題に関する研究、実験に励む理学部の学生たち。
彼らに、研究への思いや将来の夢について語ってもらいました。



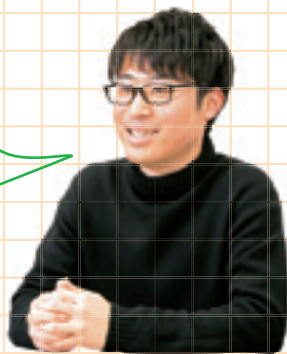
ぬま た わ か こ 和佳子さん
地球科学科4年生 (神奈川県出身)

火 砕丘で構成されている「草津白根火山」の形成史について、研究しています。水蒸気噴火が2018年にもあった山なので、防災につなげるためにも必要な研究だと思っています。フィールドワークは体力勝負で大変な面もありますが、地層がどうやってできたのか考えを巡らすのが楽しいし、景色がきれいでも癒やされます。小さな時から火山や自然に興味があって、この研究テーマを選びました。大学院でも研究を続けて、将来は火山分野の研究につながる仕事に就くのが夢です。



おあ た きゆう こ 太田 玖吾さん
物理学科4年生 (富山県出身)

富 山県の河川水を対象に、生物の基礎生産や多様性につながる大切な成分である「栄養塩」について研究しています。環境問題や自然に興味があって、この研究テーマを選びました。サンプルの採取は1日中の作業ですが、ミスがないように1つ1つ真剣に行いました。大変な時もありますが、研究室はオンオフがハッキリしていて、リラックスできる時もあるので、研究しやすい環境です。将来は土壤汚染の調査や対策を行っている企業に就職して、土壤汚染問題に取り組んでいきたいと思っています。



まつ もと あお と 碧人さん
生物圏環境科学科4年生 (兵庫県出身)

金 属結晶を作って物性を測る研究をしています。想定していない予想外のものができる時もありますが、それも含めて研究を楽しんでいます。

子どもの頃に超伝導の物質を見た時、「すごい!」と感動して物性に興味を湧きました。富山大学入学前に、すでに研究室も決めていたくらいなので、毎日がとても充実しています。春からは大学院で研究を続け、常温常圧で超伝導転移する物質を発見するのが夢です。将来は、研究職に就いて物性の研究を続けていきたいと思っています。

大学での生活や 研究の体験で得たこと

理学部では、様々な演習や実験、研究が行われています。それぞれの研究室やゼミで、さまざまな発見や、アクシデントに出会いながらも、充実した研究ライフを送っている学生たち。

生物圏環境科学専攻・生物学専攻・地球科学専攻の皆さんに、特に印象に残った体験や、日々の研究を通して身についたことについてお話を聞きました。



——研究内容について教えてください。

新濱 コケ植物の重力応答について研究しています。いろいろな重力下で植物を育てて、どんな変化が起きるかを調べるというものです。

国際宇宙ステーションでコケを培養する研究プロジェクトに参加することができ、一生の思い出となる体験をさせていただきました。実際に JAXA の中で、宇宙飛行士との交信の様子をリアルタイムで見ることもできました。

宮田 病原菌でもあり、有用な菌でもある「クロストリジウム属細菌」の、大気からの単離及び同定について研究しています。無酸素の状態でのみ増殖ができ、酸素があると死滅してしまう菌なのに、先行研究でなぜか空気中から DNA だけが見付かっています。そこで、「実は空気中に存在しているのではないか」という仮説を立てて、研究しています。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

新濱 研究に参加した他大学の教授や学生さんたちと話す機会が多いので、参加者の論文を読むなど、知識を身につけるために努力しました。うれしかったのは、いろいろな大学の研究者から実験のヒントをいただいたり、新しい知識を得られたりしたことです。



大学院 理工学教育部 修士課程
生物圏環境科学専攻2年生
みやた りょうが
宮田 凌雅さん

宮田 見付かったら世界初の

成果になるというチャレンジ
ブルな研究なので、何回も失敗を繰り返しています。研究方法を調べることから始め、いろいろな試薬や条件で実験を重ねています。大変なこともあります。いい結果が出た時はすごくうれしいです。



大学院 理工学教育部 修士課程
生物圏環境科学専攻2年生
しん はま りな
新濱 梨奈さん

——この研究をしようと思ったきっかけは？

新濱 もともと植物が好きだったことと、「コケを宇宙で育てる」という話を聞いて、「ぜひやってみたい」と思い、研究室を選びました。

宮田 昔から微生物や遺伝子関係のことに興味があったので、菌や微生物を扱って DNA 解析を行っている研究テーマを選びました。

——これからの進路と将来の夢は？

新濱 この春から薬品の研究職に就くことになっています。大学時代に貴重な経験をさせていただいたので、それを生かしていい薬を開発していきたいです。

宮田 僕も製薬会社の研究職に就職が決まっています。新しいテーマで一から考えるという研究をしてきたノウハウを生かして、自分の成長につながるような、いい薬を作っていきたいと思っています。

——研究内容について教えてください。

山浦 宇宙空間で植物の形態がどう変化するか、という研究をしています。宇宙農業のための基礎研究として、月での農業を想定し、月の砂の成分を模した材料で植物栽培ができるか調べています。具体的には、宇宙空間で育った植物の根をX線CTで可視化して、三次元的にどういう形をしているかを解析しています。

福永 農業害虫である「アブラムシ」を研究対象に、お腹の中にいる共生細菌がどう動くかをすると、赤いアブラムシが緑色になるのかという研究をしています。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

山浦 コンピューターを使った解析がメインの研究なので、画像解析のプログラムを書き換えたり、ソフトを組み合わせたりと、生物学以外の知識は自分で一から勉強しました。トライアンドエラーを繰り返して、問題解決の方策を探る力が身に付いたと思います。



大学院 理工学教育部 修士課程
生物学専攻 1年生
やま うち りょう へい
山浦 遼平さん

福永 生き物が相手なので、世話が欠かせないことや、実験から考察した結果の裏付けを取るのが大変なこともあります。でも、何カ月もかけて、実験と解析を行って、少しでも現象の理解が進んだ時は、「やっていて良かった！」

と思います。この研究を通して、忍耐力が身についたのを感じています。

——研究室の雰囲気は？

山浦 二つの研究室が合同で研究しているので、人的交流が盛んで、いつもいい刺激をもらっています。オンオフの切り替えがちゃんとしているので、メリハリがあって、とても研究しやすい雰囲気です。

福永 先生のカリスマ性に影響されて、皆とても熱心な研究室です。生き物の世話はこまめにする必要があるので、研究室内で助け合っています。

——これからの進路と将来の夢は？

山浦 僕は一年生なので、これから就職活動を始めます。黎明期ではありますが、できれば宇宙開発関連の仕事に携わりたいと思っています。まだ先のことになりそうですが、宇宙農業への夢も持ち続けたいと思っています。

福永 この春から、化学薬品メーカーの営業職に就きます。新しい知識を得て、それを話し相手と共有するのが好きなので、営業の仕事を選びました。就職先は海外志向のある会社なので、いずれは海外の方にも営業トークをしていきたいと思っています。夢は、商品の良さを世界に伝えられる営業パーソンです。



大学院 理工学教育部 修士課程
生物学専攻 2年生
ふく なが ま あ
福永 茉央さん

——研究内容について教えてください。

澤田 古地磁気学的手法を用いて、草津白根火山の活動履歴について研究をしています。様々な磁気分析から過去の地磁気方位の復元や火山灰中に含まれる磁性鉱物の同定などを行っています。そこから、過去の火山噴火の活動履歴を明確にすることを目標としています。

遠藤 富士火山の近くにたくさんある、「側火山」のうちの一つを研究しています。私の研究している側火山は、ハワイの火山のようにトロトロしたマグマの性質を持ちながら、穏やかな噴火ではなく、爆発的な噴火をします。どうしてトロトロしたマグマなのに、激しい噴火を起こすのかを知るのが最終目標です。具体的には、先輩方がこれまでのフィールドワークで採取した、火山からの噴火物である「スコリア」に入っている鉱物を調べています。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

澤田 データ数が多いので、管理が大変です。試料は700個ほど手元にあり、その一つひとつにいろいろな測定を行うので、ばく大な数のデータが出てきます。間違えると、もう一度試料を取ってこないといけないので、管理は慎重に行います。また、試料の管理についても、採取した状態の



大学院 理工学教育部 修士課程
地球科学専攻 1年生
えん どう こう き
遠藤 公喜さん

まま、乾燥させずに数年管理しないとダメです。

このように大変なこともありますが、測定が終わって、解析する瞬間はワクワクします。

遠藤 スコリアを0.02ミリくらいまで削る作業は、精密で大変ですね。気を抜くと0ミリになってしまったり消えてしまったり、穴しか見えない時もあります。

目が疲れて大変ですが、分析している時はすごく楽しいです。電子顕微鏡で目に見えないことが見えたり、新たな発見があったりすると、とてもうれしいです。

——これからの進路と将来の夢は？

澤田 博士課程への進学が決まっているので、今やっている研究を続けて、さらに突き詰めていきたいと考えています。将来は研究職に就いて、磁気分野の研究を続けていきたいと思っています。

遠藤 今年は就職活動の年になりますが、理系での研究を生かしながら、いろいろな分野での就職を考えています。火山を学べる機会は他大学ではあまりない中、富山大学で富士火山を学べて幸せでした。その経験を生かして、火山のことを全く知らない人に、火山の魅力を伝える仕事に就きたいと思っています。



大学院 理工学教育部 修士課程
地球科学専攻 2年生
さわ だ こう き
澤田 渚さん

学生による学生のための 研究者レポート

—理学部の若き研究者たちの最新情報を公開—

理学部の学生は、どんな研究をしているのでしょうか？
ここでは、学生が先輩たちに研究内容をインタビューし、
その内容を分かりやすく紹介した記事を掲載します。



インタビュー

大原 倫仁

草野 航／小林 瑞穂／松本 仁千翔

File #023 ▶

大原 倫仁（おおはら のりひと）

富山大学理学部

生物学科4年

出身地：愛知県名古屋市

趣味：スポーツ観戦（主に野球）



未知への挑戦～ホルモンの神秘～

体温を一定に保つ。体を動かす。食べたものを消化する。生物が生きていくために、たくさんのホルモンが体中を巡っていることを、皆さんはご存知だろうか？ホルモンがなければどんな動物も生きていくことができない。しかし、ホルモンにはまだまだ謎が多い。

■「ソマトラクチン」って何？

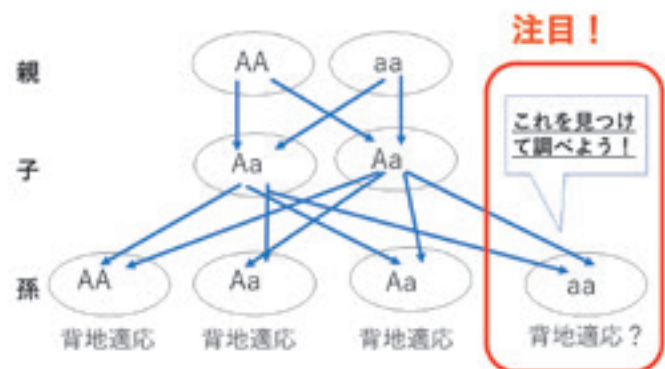
大原さんは、魚類のみに存在するホルモン「ソマトラクチン」について、その機能や生体に与える効果を研究している。

松田恒平研究室に所属する大原さんは、魚類に見られる「背地適応」という機能に、ソマトラクチンが関わっているかどうかを研究している。背地適応とは、黒色の環境で飼育した魚は、その体色が黒くなり、白色の環境では体色が白くなるという面白い現象である。

実験対象は、背地適応の機能を持つ魚類の中でもゼブラフィッシュだ。ソマトラクチンを持たない個体と、持つ個体とを観察し、その行動を比較すれば、ソマトラクチンと背地適応の関係が分かる。

■ 個体の識別方法

大原さんは実験に先立ち、ゼブラフィッシュを飼育し、遺伝子型で識別する作業に取り組んでいる。



個体の識別における関係図

ゼブラフィッシュは、ゲノム編集によってソマトラクチンをなくしたホモタイプ（aa）、ソマトラクチンをもつワイルドタイプ（AA）、両者の遺伝子を1つずつ持つヘテロタイプ（Aa）に分類される。

細胞をPCR検査などの遺伝子解析で調べ、aaの個体が背地適応を起こさないことを示せば、仮説を証明できる。

ソマトラクチンには α 型、 β 型の2種類があるが、それに



ゼブラフィッシュを飼育する大原さん

よる体色変化の違いを調べることも新たなテーマだ。春以降は大学院修士課程に進み、引き続きこの研究を深めていく予定だ。

■ 大原さんの1日

8:30~	9:00~	13:00~	16:00~	17:00~
登校 実験室で当日の仕事	朝のミーティング 実験	実験結果の確認 サンプルの回収	先週の実験データのまとめ 先生へ提出	帰宅

大原さんの研究室では生物を扱うため、土曜日や日曜日も研究室に通い、飼育などの管理が欠かせない。大原さんは、「エラーを少なくするために同じ条件下で実験をすることが大切です。そのためにも生物の飼育は他人に任せず、責任をもってやっています」と話す。

■ 取材を終えて

「ソマトラクチン」というホルモンの存在を知ったのは初めてだったが、魚類におけるホルモンの研究を行っている研究機関や団体は少ないという。「世界的にも研究が進んでいない分野だからこそ、未知の現象を解き明かすこの研究に日々やりがいを感じている」と話す大原さん。毎日、飼育や観察を続け、新しい実験データを得ることで結論を導き出す。そんな大原さんの熱意に、私たちは圧倒された。今後も未知への挑戦を続ける大原さんの活躍を期待したい。

伊藤 真弥 (いとう まさや)
富山大学大学院理工学教育部
修士課程物理学専攻2年
出身地：愛知県
趣味：料理

File #024 ▶



計算の力で未知の物質を解析

先端技術を支える新物質の探索には、その性質を原子レベルで理解することが不可欠だ。近年、実験と並行して、物理や数学を基にしたコンピューターシミュレーションで分析する手法の進歩がめざましい。

物理学科に所属する伊藤真弥さんは、ナノ研究を手がける畑田圭介研究室でこうした手法の開発に取り組んでいる。現在広く使用されている「多重散乱理論」に基づく、さらに精度の高いプログラムだ。

確率の手法で精密に調べる

物質の構造や性質を調べるには、電磁波を照射し、内部の電子の振る舞いをとらえる。原子の種類によって振る舞いがみられるエネルギーの大きさが決まっているため、与えるエネルギーを変えながら物質を調べることで、どんな原子か推測できる。

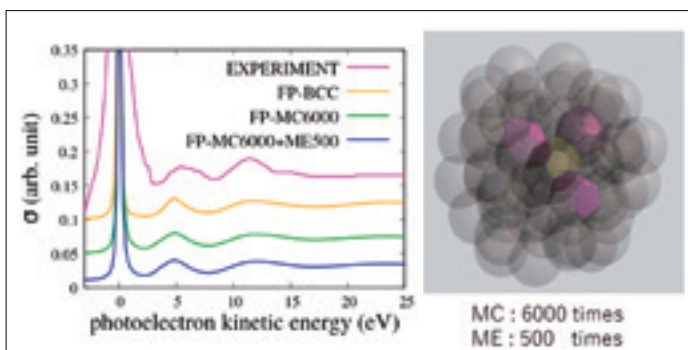
この振る舞いは結晶構造によっても変化する。実験で得た答えとコンピューターではじき出した理論値を比べることによって、ようやく構造が決定できる。

問題は、ダイヤモンドのように複雑な結晶構造を持つ場合、理論的な予測が実測値とかけ離れてしまうことだった。

畑田研究室では、これを解決するため、「フルポテンシャル法」と呼ばれる手法を編み出した。この方法では原子が不規則に並ぶような物質の隙間を、セル（原子核を持たず、電荷のみを持つもの）があると仮定して計算する。伊藤さんは確率に基づいたモンテカルロ法を使って、応用範囲の広い手法にしようと奮闘している。

研究のモチベーション

「研究が大変だと感じるのは、プログラムを動かしてもエラーになってしまったり、アルゴリズムが自分の思い通りに動いてくれなかったりするとき」と伊藤さん。そんなときは、悔しい思いもあるが、研究はとても楽しみながらやっているという。



左図：ピンク色が実験値。シミュレーションを黄色で示したフルポテンシャル法での結果に近づけることが目標。伊藤さんのプログラムで得られ緑と青の結果はどちらも黄色の結果に類似した結果を得られている。

右図：物質の隙間を架空のボールで埋めた様子

伊藤さんのモチベーションは、自分のプログラムで計算された結果が未知の物質の解析の手助けになることだ。「研究は少なからず人や社会のどこかに役に立っている。」自分の研究がどんなところで役立っているのか調べることで、研究への情熱を維持している。

物理からIT, AIへ

物理学科を選んだ理由は「物理が世の中の知の最先端だと思ったから」。学部生時代はヨット部に所属し、平日は週三回、長期休みは週五回の部活に励んだ。バイトにも精を出し、勉強する時間はほとんど無く、大学4年まで院へ進学するつもりはなかったという。

そんな伊藤さんが現在の研究室に入った理由は、物理学科にしながらプログラミングが学べることや、物理学的な問題を数学的な視点から解決することに魅力を感じたからだ。そして、物理への興味がIT、AIや深層学習にシフトし、プログラムやアルゴリズムを手がけるようになった。

グローバルに活躍したい

卒業後は大手IT企業への就職が決まっている。目標は、人々の身近なところで使われるアルゴリズムやコードを書くことだ。最後に伊藤さんは「理学部生は大学院に進んだ方がいい。問題解決能力、ロジカルシンキング力が身につく」とアドバイスしてくれた。

これらの研究紹介記事は以下の授業で作成したものです。
「科学コミュニケーションII」
主 講 師：元村有希子(毎日新聞社論説委員)
担当教員：川部達哉(数学科)、島田 互(生物圏環境科学科)

令和2年度 理学部後援会予算

収入の部

費目	金額(円)	摘要
繰越金	858,684	
後援会費	2,990,000	・R2入学生入会予想率(70%) ・過年度入学生入会者
預金利息	13	
合計	3,848,697	

支出の部

費目	金額(円)	摘要
事業費	2,931,000	保護者への案内・通信 180,000円 学習・実験等設備充実 2,100,000円 TOEIC試験受験支援 70,000円 学生表彰 161,000円 理学祭支援 65,000円 印刷費(会報) 350,000円 サイエンスメディアエーター記念品代 5,000円
事務費	35,000	事務用消耗品類 10,000円 振込手数料 25,000円
人件費	180,000	事務員手当
予備費	702,697	
合計	3,848,697	

令和2年度 理学部後援会予算収支中間決算報告

収入の部

(R2.4.1～R3.1.31)

費目	金額(円)	摘要
繰越金	858,684	
後援会費	3,050,000	R2入学生他
預金利息	10	
合計	3,908,694	

支出の部

費目	金額(円)	摘要
事業費	2,377,300	保護者への案内・通信 138,380円 学習・実験等設備充実 2,100,000円 TOEIC試験受験支援 43,000円 学生表彰 66,000円 理学祭支援 2,200円 印刷費(封筒) 27,720円
事務費	56,312	事務用消耗品類 28,416円 振込手数料 27,896円
人件費	139,300	事務員手当
予備費	1,335,782	次年度繰越金
合計	3,908,694	

◆理学部後援会への入会のお願について

理学部後援会は、保護者と理学部との連絡を密にし、「学生の教育活動及び就職活動等の支援」を目的に設立され、多くの支援を行ってきました。

保護者の皆様におかれましては、後援会設置の趣旨をご理解をいただき、是非ともご入会いただきますようお願いいたします。

会費：学部学生(20,000円)、編入学生(10,000円)(いずれも入会時のみ。)

令和2年度 理学部後援会役員

会長	成瀬 真(3年生理事兼任)
副会長	高沼 美昭(2年生理事兼任)
副会長	杉浦幸之助(教員理事兼任：地球科学科教授)
理事	若杉 達也(理学部長)
理事	保護者 各学年2名(計8名)
理事	教員 各学科1名(計6名)
理事	賛助会員 2名
監事	岡本 達也(正会員)
監事	上田 肇一(数学科教授)

令和2年度卒業予定者の進学・求職・就職状況

	男	女	合計
① 卒業予定者数	151	67	218
② ①のうち進学者数	72	24	96
③ 進学率【②／①(%)】	47.7%	35.8%	44.0%
④ ①のうち求職者数	71	38	109
⑤ ④のうち就職内定者数	66	35	101
⑤のうち富山県内	24	14	38
⑤のうち富山県外	42	21	63
⑥ 内定率【⑤／④(%)】	93.0%	92.1%	92.7%

令和3年2月末日時点調査

令和2年度理学部学生表彰

表彰の基準は、「特に成績の優れた者」です。

学長表彰者として2名、学部長表彰者として18名が選ばれています。

◇学長表彰

数学科

藤原 礼子

生物圏環境科学科

藤本 美柚

◇学部長表彰

数学科

須藤 優太
金堂 優哉
深田 智大

物理学科

阿部 繁
明法寺 龍也
吉川 和輝

化学科

山田 修太郎
植田 智貴
河村 賢悟

生物学科

田口 直哉
今泉 那月
小出 みなみ

地球科学科

加藤 里枝
辻 泰成
晴 被 茜

生物圏環境科学科

峯村 友都
長谷川 彩花
樋山 桜子

富山大学理学部後援会

〒930-8555 富山市五福3190

TEL 076-411-4803 FAX 076-445-6549

HP <http://www3.u-toyama.ac.jp/safs/>

e-mail safs@sci.u-toyama.ac.jp

編集 後記

新型コロナウイルスにより、「大学とは何か？」を問われる1年ではなかったかと思います。幸い、本学はオンラインを併用しながら、後期には感染予防対策を万全に授業を行ってきました。しかしながら、どこで感染するか分からない状況や気軽に友だちに会えないストレスは計り知れなかったかと思えます。大学は勉強するだけのところではないということを痛感した学生が多かったのではないのでしょうか。この1年間、教育研究環境が一変し、先の見えない大学生活だったかと思えます。このような状況下で、学生は戸惑いながらも一步一步進んでいる様子が、本会誌でご覧頂けると思えます。今後とも理学部ならびに後援会へのご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。(理学部広報委員会委員長 青木一真)

